



撮影：三浦和人

金子至先生を偲ぶ

名誉会員 田中 淳

私が金子至先生とはじめてお会いしたのは、桑沢デザイン研究所創立の翌年、昭和30年4月であった。カタカナのデザインを冠した教育機関の端初、昼間のリビングデザイン科第一期生としてであった。金子先生からご覧になって、私を含め、この時期の学生たちは、デザインに関して、全く無知同然だった。

そこで、先生の講義は工芸的な道具・家庭用品など、物品分類表などに始まり、丹念であり詳細に亘った物づくりのことを講義して下さった。どんな時にも、いかにも楽しげに、各学生一人ずつの興味や関心にも、気配りして下さった。しかも、工業デザインに関わる物作りは、人の手でしっかりと、道具・機器などを使って形づくられることを、デザインの基本から、実際の様々な高低を経て進むことを、しっかりと習得できるよう教えていただいた。

金子至先生が学生に数多くのデザイン指導の授業を想い起すにつけ、初歩的なことも判り易く、使う側の立場を考えながら、はっきりとさせる語り口で、常に述べておられた。『我々のつくり、使ったりしている道具、機械の中であらためて材料を振り返ると、素朴な材料、いわゆるローマテリアルといわれる一次材料で作られたものが、次第に少なくなってきて、かえってそういうものが「贅沢」にさえ思える。

割箸の最高の質は利休箸だが、見たとおり一次材料で、材料の選択から、手になじむソフトな曲面で全体を削りまとめ、はじめから一本ずつ、対でつくっていく。

何げなく使っている鉛筆を、北米産の良材を板にし、乾燥し、接着の後に両面からV字のカッターでカットするとあの六画の鉛筆の形になる。この六角の、おのおのの面は平面に見えるが、実はこの面を平面にすると、持ちにくく疲れ易い。

この六面に大きな曲面を持たせることが、デザインのポイント

でもあるが、意外に知らない人が多い。

そのあと高級鉛筆になれば、9回も塗装の工程をとる。そこに加えられる技術は、芯は窯業技術であり、軸は木工技術である。その最高の品質をたもっている鉛筆は日本製である。そこには、人間の心があり、日本文化があるといいよ』

この長文の引用は、金子至先生が(社)神奈川県産業貿易振興協会の機関誌に寄稿された“部分とデザイン”という文章の書き出しである。この文は、ほぼ同じような平易な語り口で、製品の製造工程の積み重ねへと論旨を進め、機械製品にまで、そして生産の省力化と、省資源化にもつながる論旨を展開させていくのである。

同様のことが、当時の若い何も知らない学生たちに対してもほぼ同じように、指摘されていたのだと思返される。

つねに文章を書かれる時も、また講義して下さる時も、普通の語り口そのままの平易さで、しかも端正である上、気配りを豊かにお持ちで、実例をもって教えてくださっていた。しかも金子至先生の書かれる文字には、とりわけ強く人を魅了する力があつたと思う。

当時金子至先生、秋岡芳夫先生、河潤之助先生のお名前の頭文字を社名にしたデザイン会社 KAK の業績こそ、日本のインダストリアルデザインを、視覚的にも印象深く滲透されておられる。ここでも、金子至先生が強く印象づける表現へと、貢献されたことが大きかったと考えさせられる。

永年の業績・功績により、1983年(昭58)紫綬褒章を受けられた金子至先生は、高齢により惜しまれつつ昨年逝去された。

先生を偲ぶ会は2014年6月1日開催の折には、各関係の方々、デザイン界の名士多数を含む160名の出席者が参集して、金子至先生の遺徳を偲び、揃って心からの哀悼と感謝を捧げた。

◆金子至 デザインと共に — その歩み

- 1920年(大9) 東京市日本橋生まれ(命名 与謝野晶子)
- 1936年(昭11) 東京府立工芸学校 木材工芸科選科工芸品分科修了 同校助手
- 1937年(昭12) アントニン・レイモンド建築設計事務所勤務
- 1939年(昭14) 商工省工芸指導所 通商産業省工業技術院産業工芸試験所(後・工業技術院製品科学研究所)、通商産業省工業技術院兼務。通商産業技官
- 1949～1954年 「工芸ニュース」編集長
- 1953～1968年 秋岡芳夫、河潤之介と工業デザイン(有) KAK(カック)を設立。代表取締役
- 1954～2000年 学校法人桑沢学園 専門学校桑沢デザイン研究所設立に参画。同学園評議員、理事、顧問
- 1968年～ インダストリアルデザイン主任教授、1968～77年 同学園東京造形大学兼任教授
- 【受賞】
- 1959年(昭34) 第5回毎日産業デザイン賞・工業部門(工業デザインKAKとして受賞)
- 1983年(昭58) 紫綬褒章
- 【所属団体・役員】
- 1952年(昭27) 日本インダストリアルデザイナー協会設立に参加。理事、監査人を歴任し名誉会員
- 1953年～ 日本デザイン学会評議員を経て、名誉会員。
- 1982年～ 財団法人工芸財団評議員、理事を経て理事長。
- 1995年～ 日本工芸技術協会 会長
- 1990年～ 法隆寺友の会 会員
- 【業績】
- 1976～82年 神奈川県商工指導センターデザイン指導室 嘱託
- 1976～78年 文部省学習指導要領委員(工業学校)
- 1977～83年 文部省産業教育・教科調査委員会および高等学校・職業教育教科書・デザイン科審査委員。「デザイン製図」「デザイン史」「デザイン材料」「デザイン技術」
- 1979年～ Gマーク商品選定審査委員。1990年、92年 審査委員長
- 【製品デザイン+コンサルタント】
- 1951～97年 製品デザイン約450点

平成25年度第1回理事会議事録

日時■平成25年4月13日(土曜日)

14:00~17:00

場所■芝浦工業大学 芝浦校舎3階305室

出席者■山中、松岡、五十嵐、池田、岡崎、片岡、清水、國澤、國本、久保(雅)、黄、杉下、杉山、高野、田村、中嶋、生田目、野口、萩原、三橋、森田、佐藤

委任状出席■須永、青木(史)、浅沼、井上、伊原、久保(光)、寺内、永井、橋田、両角、山内、山崎、小野、八馬、

欠席者■青木(弘)、工藤、蓮見、古屋、細谷、

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 平成24年度第8回理事会議事録の承認

(佐藤本部事務局長)

平成24年度第8回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成25年度学会活動方針(山中会長)

山中会長より、平成25年度活動方針について、昨年度示された活動方針を現状に即すよう見直した個所、論文審査システムのオンライン化、IASDRの状況などについて説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

4. 平成25年度学会組織について(山中会長)

山中会長より、資料に基づき平成25年度学会組織について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

5. 平成25年度学会運営スケジュールについて

(佐藤本部事務局長)

佐藤本部事務局長より、平成25年度学会運営スケジュールが示され、審議の後、承認がなされた。

6. 名誉会員推挙について(山中会長)

学会役員経歴などの資料が配布され、名誉会員について推挙がなされた。推挙された会員の状況について確認の後、次の理事会で決定することとした。また杉山理事より、フェロー会員

制度について検討すべきであるとの意見が出され、今後の理事会で審議することとした。

7. 平成25年度春季研究発表大会について

(五十嵐大会実行委員長)

五十嵐大会実行委員長より、スケジュール案、ホテルの予約、エクスカージョン、ポスター案について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

8. 平成25年度第60回総会式次第について

(佐藤本部事務局長)

佐藤本部事務局長より第60回総会式次第案が示され、名誉会員の人数の関係、審議の後、承認がなされた。

9. 平成25年度秋季企画大会及び平成26年度春季研究発表大会について(山中会長)

山中会長より、平成25年度秋季企画大会について、日時を10月19日、会場を多摩美術大学八王子キャンパスとする案が提示され、審議の後、承認がなされた。平成25年度春季研究発表大会の開催場所について、会場を福井工業大学とする案が提示され、審議の後承認がなされた。日時については今後検討することとした。

10. 法人化に向けた検討ワーキンググループの設置について(國澤理事)

國澤理事より、他学会の法人化移行状況について、また日本デザイン学会の法人化の方向性について説明がなされた。また今後検討作業を進めていくにあたり、ワーキンググループを設置したいとの提案がなされ、承認がなされた。

11. 会員の移動について(佐藤本部事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[正会員7名(内外国人1名)、学生会員21名(内外国人5名)、退会(正会員19名 学生会員7名)]が承認された。

【報告事項】

12. IASDR2013実施運営について

(山中国際会議担当理事)

4月13日午前中に開催された組織委員会について報告がなされた。また理事に対してフルペーパーの査読、協賛依頼先の提案について協力依頼がなされた。

13. 第三支部報告(國本第三支部長)

3月17日に開催された研究発表会・懇親会について、また日本デザイン学会奨励賞第三支部について報告がなされた。

山中会長、松岡学会各賞担当理事より、賞の名称が日本デザイン学会が実施している研究奨励賞と似ているため混乱が生じる恐れがあるので、支部が実施していることが分かる名称に変えて欲しい、また今後、支部で賞を授与する場合は、他の賞との関係もあるので、学会各賞選考委員会担当まで連絡して欲しいとの依頼がなされた。

14. 論文審査状況報告

(久保(光)論文審査委員長(代)佐藤本部事務局長)

久保(光)論文審査委員長の代理として、佐藤本部事務局長より、現在の査読状況について報告がなされた。

15. 学会誌編集・出版委員会報告

(岡崎学会誌編集・出版委員会委員長)

岡崎学会誌編集・出版委員会委員長より、学会誌の編集・出版状況について報告がなされた。2012年度作品集は今月中に配送完了予定、特集号77号、78号は配送済み、79号“子供のためのデザイン”は現在著者校正の段階であること、また学会誌の電子化に伴う著作権問題は、現在JST担当者からの回答待ちであるとの報告がなされた。

16. 平成24年度活動報告、平成25年度活動計画

(佐藤本部事務局長)

佐藤本部事務局長から、各委員長に対して、平成24年度活動報告、平成25年度活動計画を5月13日までに本部事務局まで提出して欲しいとの依頼がなされた。

(記録：小野)

平成25年度第2回理事会議事録

日時■平成25年5月18日(土曜日)

13:30~16:00

場所■東京藝術大学(上野校)音楽学部

出席者■山中、松岡、五十嵐、片岡、清水、久保(光)、

中嶋、生田目、山崎、佐藤、小野

委任状出席■須永、岡崎、山内

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 平成25年度第一回理事会議事録の承認

(小野本部副事務局長)

平成25年度第一回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成24年度決算・監査報告(小野本部副事務局長)

小野本部副事務局長より、平成24年度決算について、および平成24年度の監査について説明がなされた、審議の後、承認がなされた。

4. 平成25年度予算案(小野本部副事務局長)

小野本部副事務局長より、平成25年度予算案について説明がなされ、審議の後、承認がなされた。

5. 平成25年度春季大会について(五十嵐大会実行委員長)

五十嵐大会実行委員長より、予定発表数が225件であること、大会スケジュール、会場計画について案が示され、審議の後、承認がなされた。またプログラムの配送については、本年度から事前に会員に郵送するのを止め、当日配布することとした。また浅沼会員の学会各賞記念講演については秋季大会で開催する方向で検討することとした。

6. 作品集投稿規定と執筆要領について

(清水作品審査委員長)

清水作品審査委員長より、作品集投稿規定および執筆要領案が示され、審議の後、承認がなされた。また「デザイン学研究・作品集」の応募・投稿から掲載までの手順について案が示され、審議の後、承認がなされた。

7. 研究推進委員会規程の見直しについて

(須永推進委員長(代)佐藤本部事務局長)

須永研究推進委員会委員長の代理として佐藤本部事務局長より、研究推進委員会規定、および研究部会統括運営細則の改定案について説明がなされた。研究部会の新設、改廃に権限を理事会に移譲すること、研究部会の活動目的を明確に示すこと、また活動内容を具体的に示すことが主な改定の点であり、審議の後、検討する時間があまりないため、今回の総会で審議に諮るのは見送ることし、引き続き、検討を進めることとした。

8. 賛助会員規約について(佐藤本部事務局長)

佐藤本部事務局長より、現在の賛助会員規約が十分に整備されていないため、早急に整備する必要があるとの指摘がなされ、本部事務局で検討を進めることとした。

9. 会員の移動について（小野本部副事務局長）

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[正会員21名（内外国人4名）、学生会員54名（内外国人6名）、退会（正会員6名、学生会員5名、年間購読2件）]が承認された。

【報告事項】

10. IASDR2013実施運営について

（山中国際会議担当理事）

山中国際会議担当理事より現在の準備状況について説明がなされた。また今後、会議が近づくにつれ、より多くの協力が必要となってくるため、ぜひご協力頂きたいとの依頼がなされた。

11. 平成25年度秋季企画大会について（山中会長）

山中会長より、平成25年度秋季企画大会について、10月19日（土）に多摩美術大学にて開催することで了承を得られたとの報告がなされた。

12. 平成25年度の「デザイン学研究」に対する論文投稿・審査の状況報告（久保（光）論文審査委員長）

久保論文審査委員長より、本年度の論文投稿・審査状況について報告がなされた。

13. 著作権に関する投稿規定作成と平成25年度の作品集

および特集号の発行状況について

（岡崎編集出版委員長（代）佐藤本部事務局長）

岡崎編集出版委員長の代理として、佐藤本部事務局長より、著作権に関する投稿規定作成について、「著作権保持者から学会が著作権を借りる」という形式でJ-Stage側の了承が得られたので、現在、弁護士の方に投稿規定案の作成を依頼しているとの報告がなされた。また2012年度の作品集、および特集号の進捗状況について報告がなされた。

14. 2012年度専門職大学院認証評価結果・公表について

（山内教育・資格委員長（代）片岡委員）

山内教育・資格委員長の代理として、片岡委員より、以前JABEEから問い合わせのあった、創造技術の英訳に関して、“Innovation for Design and Engineering”で決定されたとの報告がなされた。

15. 法人化検討WGについて（國澤担当理事（代）山中会長）

國澤担当理事の代理として、山中会長より、法人化に関する検討を進めるにあたり、ワーキンググループを設置し、年内に、

方針決定、実施する場合にはロードマップの作成を目標に進めて行きたいとの報告がなされた。

16. 平成25年度学会運営スケジュールについて

（小野本部副事務局長）

小野副本部事務局長より、運営スケジュールの修正版が配布された。

17. 総会資料確認のお願い（小野本部副事務局長）

小野本部事務局長より、総会資料の内容について確認がなされた。

（記録：小野）

平成25年度第3回理事会議事録

日時■平成25年6月21日（金曜日）

11:45～12:45

場所■筑波大学 総合交流会館

マルチメディアルーム

出席者■山中、松岡、須永、青木（弘）、青木（史）、五十嵐、池田、岡崎、片岡、國澤、國本、久保（雅）、久保（光）、黄、杉山、田村、中嶋、生田目、野口、萩原、橋田、細谷、三橋、森田、両角、山内、佐藤、小野、八馬、委任状出席■浅沼、井上、伊原、清水、工藤、杉下、高野、寺内、永井、山崎、

欠席■蓮見、古屋、

名誉会員■青木、五十嵐、岩田、加藤、君島、黒川、酒井、庄子、平、高山、長谷、梨原、西川、野口、原田、日原、和田、

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 名誉会員の紹介

ご参加頂いた名誉会員の方々よりご挨拶頂いた。

3. 平成25年度第二回理事会議事録の承認

（小野本部副事務局長）

平成25年度第二回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

4. 平成25年度秋季企画大会について(須永大会実行委員長)

須永大会実行委員長より、10月19日(土)、多摩美術大学八王子キャンパスで開催される平成25年度秋季企画大会についてテーマ「(仮) デザインスクールの学び手達はクリエイティブを如何に身につけているのか」および内容について説明がなされ、承認がなされた。

5. 平成26年度春季研究発表大会について

(池田大会実行委員長)

池田大会実行委員より、平成26年度春季研究発表大会について、日時を7月4日(金)～6日(日)の3日間とすること、また会場を福井工業大学福井キャンパスとすることについて説明がなされ、承認がなされた。

6. Design シンポジウム2014について(松岡担当理事)

2015年、設計工学会が幹事学会として開催されるDesignシンポジウムへの共催について審議の後、承認がなされた。また委員、若手ワーキンググループメンバーについて、審議の後、委員として、松岡由幸会員、小林昭世会員、永井由佳里会員、若手ワーキンググループメンバーとして、小野健太会員、佐藤浩一郎会員が選出された。

7. 選挙管理委員の選出(佐藤本部事務局長)

現在の選挙管理委員の任期が、平成24年7月31日で終了するため、次期選挙管理委員長について審議がなされた。審議の結果、工藤芳彰理事を次期選挙管理委員長とすることで承認がなされた。

8. 会員の移動について(小野本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[正会員16名(内外国人1名)、学生会員6名(内外国人2名)、退会(正会員6名(内外国人2名)、学生会員7名、年間購読1件)]が承認された。

【報告事項】

9. 第五支部活動報告(田村第五支部副支部長)

田村第五支部副支部長より、6月11～16日の間、JR博多シティで開催された第5回九州・沖縄地区学生デザイン展について報告がなされた。本年度から、久留米工業高等専門学校専攻科を加えた7機関で共同開催し、約2000名の来場があっ

たこと、また優秀作品4点選び最終日に表彰式を行ったとの報告がなされた。

10. 学会各賞の応募案内について(松岡担当理事)

松岡担当理事より、7月31日締め切りの学会各賞の応募について、告知および応募の依頼がなされた。また本年度の学会各賞選考委員について、青木弘行氏を委員長とし、委員は昨年度と同じ体制で進めていくとの報告がなされた。

11. 電子投票法人化について(國澤理事)

國澤理事より、他学会で既に導入されている電子投票システムについて、導入を検討する必要があるとの意見が示された。

12. 新しいデザインの動向について(三橋理事)

三橋理事より、京都大学で行われている博士課程教育リーディングプログラム「デザイン学大学院連携プログラム」など、新しいデザインの動向について、それらの動向を把握し、うまく協働できるよう活動する必要があるとの意見が示された。

(記録：小野)

平成25年度第4回理事会議事録

日時■平成25年9月21日(土曜日)

14:30～17:00

場所■筑波大学 東京キャンパス(茗荷谷)

320講義室

出席者■山中、松岡、須永、岡崎、清水、久保(光)、生田目、両角、山内、佐藤、小野、

欠席者■山崎、

1. 会長挨拶

山中会長から挨拶がなされた。

2. 平成25年度第三回理事会議事録の承認

(小野本部副事務局長)

平成25年度第三回理事会の議事録が示され、原案通り承認された。

【審議事項】

3. 平成25年度学会各賞について(松岡学会各賞担当理事)

松岡担当理事より、平成25年度学会各賞選考結果について下記の通り報告がなされ、承認がなされた。

功労賞：黒川威人氏、原田昭氏、堀田明裕氏、宮崎清氏、早坂功氏

年間作品賞：小早川真衣子氏、須永剛司氏、高見知里氏、久保田秀和氏、西村拓一氏

4. 平成26年度春季研究発表大会について(山内大会委員長)

山内大会委員長より、平成26年度春季研究発表大会について、組織体制、スケジュール案、助成金の申請について説明がなされ、承認がなされた。またテーマ案として“みんなのデザイン～らしいくらし、あわせるしあわせ～”が示され、議論の後、より明確にビジョンを表す方向で、さらに検討することとした。両角企画委員会支部企画委員長より、周辺地域の教育機関と連携し進めていって頂きたいとの要望がなされ、学生交流ワークショップも含め積極的に進めていくことで承認がなされた。

5. 作品集電子化および学会誌の完全電子化のロードマップについて(岡崎学会誌編集・出版委員長)

岡崎学会誌編集・出版委員長より、作品集の電子化のロードマップについて説明がなされた。作品集については、新規電子ジャーナルとして承認を得るためには年間80本程度の投稿が必要であり、その要件を満たすのは困難であるため、作品集は論文集の特別号として電子化する。また特集号については、論文集の後ろに会報と同様な形で掲載することにより電子化するとの案が示された。

審議の後、作品集については、異なる投稿規定、著作権規定が併記される形でも承認されるかどうか、改めてJ-Stageに確認する必要がある。また作品集の位置づけについても、慎重に議論する必要があるとの意見がなされ、10月の理事会で再度審議することとした。

また特集号については、論文集の発行スケジュールと特集号の発行スケジュールをリンクさせる必要があるが、現実的には難しいとの意見がなされ、特集号の電子化についても、10月の理事会で再度審議することとした。

6. 部会新設について(須永研究推進委員長)

岡崎理事より提出された、こどものためのデザイン研究部会の新設について審議がなされ、承認がなされた。また部会の活動は、本日9月21日より開始することとした。

7. 『デザイン科学事典』編纂の進め方について(松岡理事)

松岡理事より『デザイン科学事典』の編纂の進め方について

説明がなされた。山中会長より、編集組織について、位置づけが不明確な部分があるため、再度検討を頂きたいとの要望がなされた。

8. 韓国デザイン学会からの覚書(MOU)について(山中会長)

山中会長より、韓国デザイン学会から申し出があった覚書締結について説明がなされた。審議の後、締結の方向で進めることとした。

9. 会員の移動について(小野本部副事務局長)

事務局に提出された書類を回覧・審議した結果、[正会員15名(内外国人4名)、学生会員5名、退会(正会員6名(内外国人2名)、学生会員2名、年間購読1件)]が承認された。

【報告事項】

10. 第5回国際デザイン学会連合国際会議の開催について

(山中会長)

8月26~31日の間、芝浦工業大学で開催された第5回国際デザイン学会連合国際会議について参加者が約800名あり、多くの方々のご協力のお蔭で、成功裡に終了することができたとの報告がなされた。また佐藤本部事務局長より、デザイン学会の紹介展示のために10万円程度費用が発生したとの報告がなされた。

11. 平成25年度秋季企画大会および学生プロポジション募集と実施の報告について(須永秋季企画大会実行委員長)

須永秋季企画大会実行委員長より、10月19日に多摩美術大学八王子キャンパスで開催される平成25年度秋季企画大会について、基調講演、招待講演、展覧会、パネルディスカッション、学生プロポジションについて、説明がなされた。学生プロポジションの表彰については、実行委員会で再度検討することとした。

12. 論文審査委員会報告(久保(光)論文審査委員長)

久保論文審査委員長より、平成24年度、および平成25年度の審査結果および審査状況について報告がなされ、サイテーションインデックス導入のための英語論文の分離化については、引き続き検討を進めていくとの報告がなされた。また分離化のためには来年度の予算に反映させる必要があるため、時間の理事会で予算も含めて審議することとした。

13. 作品審査進捗状況(清水作品審査委員長)

清水作品審査委員長より、平成25年度の審査状況について

報告がなされた。また審査の進め方について、昨年度より組織を出版と審査を分離したが、手続きとしてはあまり効率化が計られていないとの報告がなされ、改めて審議することとした。

14. 第5回第一支部大会報告（両角第一支部長）

両角第一支部長より、9月6日に開催された第一支部大会について報告がなされた。また学会のウェブサイトが現在更新できない状況のため、再度確認頂きたいとの要望がなされた。

15. 選挙管理委員について

（工藤選挙管理委員長（代）佐藤本部事務局長）

工藤選挙管理委員長の代理として佐藤本部事務局長より、植田 憲会員、内山 俊朗会員、永見 豊会員、八馬 智会員を選挙管理委員として選出したとの報告がなされた。

16. 教育・資格委員会報告（山内教育・資格委員長）

山内教育・視覚委員長より、9月20日に開催された教育・資格委員会について報告がなされた。産学のギャップを埋めるため、またデザイナーの地位向上のために、現在、デザイン振興会のグッドデザイン賞と作品集との連携について審議を進めているとの報告がなされた。松岡副会長より、作品集の位置づけについて、慎重の審議を進めて頂きたいとの要望がなされた。

（記録：小野）

住所変更はお済みですか？

住所不明で戻ってくる郵便物が
増えております。

住所変更は確実にお願いします。

届出は文書にてお願いします。

転居される方は、FAXまたは
綴じ込みの『入会届』と書き添えて、
事務局までご連絡ください。

ホームページ

http://jssd.jp/files/change_regular.pdf にも
様式が掲載されておりますので
ご利用ください。

退会等の届け出も必ず文書にて
お願いします。

本部事務局

平成26年度総会報告

本部事務局

平成26年度7月4日（金）、AOSSA 8Fホールにおいて、第61回総会が開催されました。

司会進行は小野健太本部事務局長が行いました。司会から、出席者数は、会場出席者40名、委任状出席者数が186名（定数155名）により総会が成立することが報告されました。



山中敏正会長から、基本方針を「デザイン学研究の社会的基盤構築に向けて」とし、より積極的に活動を展開していきたいとの説明がなされました。

議事は峯元長正会員（日立製作所）と島山真紀会員（千葉大学）の二人の議長団の司会で進行されました。

まず、須永前副会長の代理として小野本部事務局長から平成25年度の活動報告があり、つづいて佐藤弘喜前本部事務局長より平成25年度の決算報告がなされ、それに対し野口尚孝前監査から監査報告がなされました。

その後、会場からの質疑応答を経て議事の結果、承認されました。

松岡由幸副会長の平成26年度事業計画の説明に続き、小野健太本部事務局長から平成26年度の予算案の説明があり、審議の結果、議決されました。



写真：総会会場エントランス風景

平成26年度日本デザイン学会秋期企画大会報告

テーマ：グローバル連携とデザイン教育

Global Relation and Design Education

今日、世界はグローバル化が急速に進み、さまざまな学問と研究分野で連携が進んでいます。その背景にはもはやその国、その地域だけではない解決できない問題が顕在化しグローバルな連携による研究と解決が求められているからです。一方、グローバル化が進展することによって、世界が均一化の方向に向かい固有の文化や価値観が損なわれるのではないかという懸念もあります。その国や地域の多様性を見出し尊重していくことも大きな課題となっています。このような観点からデザインの研究と教育のグローバル連携はこれまでになく重要となっています。それはデザインの持つ研究機能や教育の特質からグローバルな課題や多様性についてデザイン分野からの提案と貢献が有効と認識できるからです。本大会ではグローバル連携の可能性や展開を考察しデザイン教育の在り方やその方向性を見出す機会とします。

■日時：平成26（2014）年10月25日（土）

9:30から17:00（交流会 17:15から18:45）

■会場：東京造形大学（受付）桑沢記念ホール 4D、4E
JR横浜線・相原駅、（東口）、スクールバス（東口、東京造形大学スクールバス乗場）

<http://www.zokei.ac.jp>

■参加費（当日受付）

- ・デザイン学会会員：1,000円
- ・非会員：2,000円
- ・学生会員：500円（学生証の提示をもって受付）
- ・学生非会員：500円（学生証の提示をもって受付）
- ・交流会参加費（当日受付）500円

■大会委員長：有吉 徹

■実行委員長：玉田俊郎

■主催：日本デザイン学会

■協力：東京造形大学

■大会プログラム

受付 09:00 桑沢記念ホール 4D、4E

大会 09:30~10:00 開会挨拶、学会賞授与など

10:00-11:00 基調講演：Ulrich Schendzielorz（シュピービーシュ・ゲミュント造形大学教授）

テーマ：「グローバル連携とデザイン教育 -Cumulusの活動と展開-」

* Cumulus：国際的美術・デザイン・メディア大学

11:00-12:00 基調報告：益田文和（東京造形大学教授）

テーマ：「DESISの活動と展開－ソーシャルデザイン+サステナブルデザイン－」

* DESIS (デスイズ) とは、デザインに関する教育プログラム、デザインラボ間のネットワーク。DESISはUNEP (国連環境計画) の支援を受けた活動。

昼食 (弁当の用意はありません) [学食]

12:00-14:30 学生プロポジション展覧会 (全国のデザイン学生作品) - ZOKEIギャラリー ZOKEI教育展-社会への照準-東京造形大学美術館

14:50-16:50 パネルディスカッション

テーマ：グローバル連携とデザイン教育その取組みと展開

- ・ 圓山憲子 (武蔵野美術大学、国際センター長)
- ・ 樋口孝之 (千葉大学)
- ・ 益田文和 (東京造形大学)
- ・ モデレータ：玉田俊郎 (東京造形大学)

16:50-17:00 閉会挨拶

17:15-18:45 交流会 [CSプラザ]

■東京造形大学国際造形教育シンポジウム (日本デザイン学会協賛) 12-201 (大学院)

平成26 (2014) 年10月26日 (日) 10:00~17:00 (レセプション 17:15~18:45)

■基調講演 テーマ：バウハウスの軌跡と日本における造形教育の発展 向井周太郎

■パネラー報告 テーマ：日本とドイツ、バウハウス造形教育の展開と成果、そして課題

■司会者： 林 道郎 (上智大学教授)

コメンテータ： 向井周太郎 (武蔵野美術大学名誉教授)

Matthias Held (シュビービッシュ・ゲミュント造形大学教授)

Lesley Millar (University for the Creative Arts, England 教授)

他

募集案内

第8回雪のデザイン賞の公募について

六角形を基本とした精緻で清らかな雪の結晶。それは自然が造る最も美しいものの一つとすることができます。

加賀市出身の「雪博士」中谷吉郎 (1900~62) は、世界で初めて人工雪を作ることに成功し「雪は天から送られた手紙である」という言葉を残しました。そのような雪を、暮らしの中にデザインしてみませんか。加賀市による「雪」と「氷」をテーマにしたデザイン作品の第8回公募 (コンペ) を実施します。

●応募受付期間：2014年12月1日 (月) ~ 2015年4月30日 (木) (必着)

●審査：2015年6月 一次審査、9月 最終審査

●入選作品展：2015年10月29日 (木) ~ 2016年2月16日 (火)

(会場は雪の科学館 又は 加賀市内の公共施設)

●表彰式：2015年10月31日 (土) (予定)

●作品返却：2016年2月下旬 (移動展開催の場合は変更することがあります。)

作品を返却できなくなった場合、作品を廃棄若しくは主催者に寄贈していただくこととなりますので、その旨を同意の上、出品下さい。

●応募についての詳細

http://www.kagashi-ss.co.jp/yuki-mus/materials/jp_design8_gl.pdf

●出品申込書

下記からダウンロードしてください。

http://www.kagashi-ss.co.jp/yuki-mus/materials/jp_design8_af.pdf

日本デザイン学会秋季企画大会 東京造形大学 10月25日 (土)

■テーマ
グローバル連携とデザイン教育
Global Relation and Design Education

■開催日時 平成26 (2014) 年10月25日 (土)
9:30から17:00 (交流会17:15から18:45)

■会場 東京造形大学 (受付 泉沢記念ホール 4D、4E)
※ 泉沢記念・相模野、(東口) スクウェアビル (東口)、東京造形大学スクウェアビル (泉沢場)
<http://www.zokei.ac.jp>
直での来校はできません。

■大会参加費 (当日受付)
・デザイン学会員：1000円
・学生会員：2000円
・学生会員：500円 (学生証の提示をもって受付)

■交流会参加費 (当日受付) 500円
大会委員長 有吉 肇 実行委員長 玉田俊郎
主催 日本デザイン学会 協力 東京造形大学

■主旨
今日、世界はグローバル化の急進に進み、さまざまな学際と研究分野で連携が進んでいます。その発展にもはや学際、その地域だけでなく、世界が国際化しグローバルな連携による研究と解決が求められているからです。一方、グローバル化が進むことによって、世界が均一化の方向に向かい、固有の文化や価値が損なわれるのではないかと懸念もあります。その国や地域の多様性を生み出し、尊重していくことが大きな課題となっています。このように国境からデザインの研究と教育のグローバル化はこれまで以上に重要となつていきます。それはデザインの特長である多様な視点からグローバルな課題や多様性についてデザイン分野からの提案と貢献が有効と認識できるからです。本大会ではグローバル連携の可能性や協働を推進しデザイン教育の在り方やその方向性を見出す機会とします。

■大会プログラム
受付 09:00 泉沢記念ホール 4D、4E
大会 09:30-10:00 開会挨拶、学長挨拶など
10:00-11:00 基調講演：Ulrich Schendelzer (シュビービッシュ・ゲミュント造形大学教授) 「グローバル連携とデザイン教育-Cumulusの活動と展開」
11:00-12:00 基調報告：益田文和 (東京造形大学教授) 「DESISの活動と展開-ソーシャルデザイン+サステナブルデザイン」
● DESIS (デスイズ) とは、デザインに関する教育プログラム、デザインラボ間のネットワーク。DESISはUNEP (国連環境計画) の支援を受けた活動。
12:00-14:30 学生プロポジション展覧会 (全国のデザイン学生作品) -ZOKEI ギャラリー- ZOKEI 教育展-社会への照準-東京造形大学美術館
14:50-16:50 パネルディスカッション
テーマ：グローバル連携とデザイン教育-その取組みと展開-
● Matthias Held (シュビービッシュ・ゲミュント造形大学教授)
● 圓山憲子 (武蔵野美術大学、国際センター長)
● 樋口孝之 (千葉大学)
● 益田文和 (東京造形大学)
● モデレータ 玉田俊郎 (東京造形大学)
16:50-17:00 閉会挨拶
交流会 17:15-18:45 [CSプラザ]

■東京造形大学国際造形教育シンポジウム (日本デザイン学会協賛) 12-201 (大学院)
平成26 (2014) 年10月26日 (日) 10:00から17:00 (レセプション 17:15から18:45)

■基調講演 テーマ：日本とドイツ、バウハウス造形教育の展開と成果、そして課題
司会者： 林 道郎 (上智大学教授) コメンテータ： 向井周太郎 (武蔵野美術大学名誉教授)
Matthias Held (シュビービッシュ・ゲミュント造形大学教授)
Lesley Millar (University for the Creative Arts, England 教授)

写真：案内チラシ

献本御礼

◆機関誌

学園広報誌 CreativeSpiral Vol.6, November, 2013, 学校法人桑沢学園

学園広報誌 CreativeSpiral Vol.7, January, 2014, 学校法人桑沢学園

JIDA DESIGN MUSEUM VOLUME 15, 2014, 公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会

GK Report No.26/2014, 特集 かたちのあり方 3, March, 2014, GK Design Group

デザイン理論 63号, 2013, 意匠学会

KUMAGAI UPDATE 73, September, 2014, 株式会社熊谷組

◆報告書

科学技術国際シンポジウム報告書 イノベーションを牽引するシステム科学技術～日米中の動向に学ぶ～, February, 2014, 独立行政法人科学技術振興機構 研究開発戦略センター

第28回フォーラム 公共の色彩を考える 公共の色彩を問う / いま一度 - これでいいのか日本の環境色彩 - 記録集, 尾登誠一, 古屋敷美香, 篠崎幸恵, 杉村環, 関根文範, 高松智子, 松竹喜代美, April, 2014, 公共の色彩を考える会

◆寄贈図書

工芸からインダストリアルデザインへ, 金子至, October, 2008, 学校法人桑沢学園

勝井三雄・KATSUI MITSUO 1954-2013, 勝井三雄, January, 2014, 公益財団法人DNP文化振興財団

東日本大震災復興研究Ⅲ・震災復興政策の検証と新産業創出への提言, 東北大学大学院経済学研究科 地域産業復興調査研究プロジェクト編, March, 2014, 河北新報出版センター

インクルーシブデザイン・社会の課題を解決する参加型デザイン, ジュリア・カセム・平井康之・塩瀬隆之・森下静香, April, 2014, 学芸出版社

創造デザイン工学, 田浦俊春, June, 2014, 東京大学出版会

SF映画で学ぶインタフェースデザイン・アイデアと想像力を鍛え上げるための141のレッスン, NATHAN SHEDROFF CHRISTOPHER NOESSEL 著, 安藤幸央監修他, July, 2014, 丸善出版株式会社

情報デザインのワークショップ, 情報デザインフォーラム, July, 2014, 丸善出版株式会社

◆紀要

東北工業大学紀要 I 理工学編, 第34号, March, 2014, 東北工業大学

東北工業大学研究業績一覧 2012年度, 2013, 東北工業大学
名古屋造形大学 紀要 第20号, 2014, 名古屋造形大学

催し物

高松次郎ミステリーズ展

◆会期：2014年12月2日（火）～2015年3月1日（日）

◆会場：東京国立近代美術館 企画展ギャラリー

◆開館時間：10：00～17：00、金曜は20:00まで
（入室は閉館の30分前まで）

◆休館日：月曜日、12月28日（日）－1月13日（火）
（ただし1月12日は開館）

◆主催：東京国立近代美術館

◆助成：公益財団法人花王芸術・科学財団

◆協力：株式会社 遠藤照明

奈良原一高 王国展

◆会期：2014年11月18日（火）～2015年3月1日（日）

◆会場：東京国立近代美術館 ギャラリー4

◆開館時間：10：00～17：00、金曜は20：00まで
（入室は閉館の30分前まで）

◆休館日：月曜日（11月24日、2015年1月12日は開館）、
11月25日（火）、年末年始（12月28日（日）-2015年
1月1日（木・祝）、1月13日（火）

◆主催：東京国立近代美術館

◆協力：奈良原一高アーカイブズ フォト・ギャラリー・インター
ナショナル

チューリヒ美術館展—印象派からシュルレアリスムまで

◆会期：2014年9月25日（木）～12月15日（月）

◆会場：国立新美術館 企画展示室1E

◆開館時間：10：00～18：00、金曜日は20：00まで
入場は閉館の30分前まで

休館日：火曜日、ただし、10月14日（火）は開館

◆主催：国立新美術館、朝日新聞社、テレビ朝日、BS朝日

◆後援：外務省、スイス大使館

◆協賛：三井物産、トヨタ自動車、大和ハウス工業、大日本印刷、チューリッヒ保険、チューリッヒ生命

◆協力：スイス政府観光局、チューリヒ観光局、スイスインター
ナショナル エアラインズ、ルフトハンザ ドイツ航空、
ルフトハンザ カーゴ AG、アクティオ

世界のブックデザイン 2013-14 展
feat. スイスのブックデザイン

- ◆会期：2014年11月29日（土）～2015年2月22日（日）
- ◆会場：印刷博物館
- ◆開館時間：10：00～18：00
- ◆休館日：毎週月曜日（ただし1月12日（月・祝）は開館）、
2014年12月27日（土）～2015年1月5日（月）、1月
13日（火）
- ◆主催：凸版印刷株式会社 印刷博物館
- ◆後援：スイス大使館、（公社）日本グラフィックデザイナー
協会（JAGDA）
- ◆協力：東京ドイツ文化センター、（一社）日本印刷産業連合
会、（一社）日本書籍出版協会、Stichting De Best Verzorgde
Boeken、Bundesamt für KulturWettbewerb Die schönsten
Schweizer Bücher、Stiftung Buchkunst Frankfurt am Main
und Leipzig

自動引き落とし手続きのお願い

当学会では、会費の自動引き落としが義務付けられております。すでに、半数以上の会員の方にご利用いただいておりますが、まだ登録がお済でない会員の方は、登録手続きをされますよう、お願い申し上げます。また、口座引き落とし依頼書がお手元にない方は、本部事務局へご請求ください。

本部事務局